

# 萩原建設工業 I・S・Tに出資

## ロケット開発 300万円相当

萩原建設工業（帯広市、萩原一利社長）が、大樹町でロケット開発を行うインターステラテクノロジズ（I・S・T、稲川貴大社長）に対し、普通株300万円相当額を出資することで両社が合意したことが分かった。十勝はもろろ道内の事業会社がI・S・Tへ出資した例はこれまでにない。今後契約を取り交わし、手続きが順調に進めば、1月末までに出資する予定。

萩原建設工業は、今年5月に創業100周年を迎える。出資は100周年事業の一環として、「夢と将来性」に富んだ宇宙開発事業の成功の一助になりたい」との思いから計画した。今後はI・S・T側との人材交流などで関係を深めていく意向。

I・S・Tは観測ロケットの製造・開発などを行っており、昨年7月には大樹で初号機の打ち上げを行った。I・S・Tによると今回の出資

額は人工衛星を軌道に投入するためのロケット開発費用に充てられる予定。萩原建設工業に加え、他の道内企業1社も1月末の出資に向けて手続きを進めており、順調に行くと両社が北海道の事業会社としては初出資することとなる。

萩原建設工業の萩原一利常務取締役は「100周年を迎え、地元で育てられた」との思いが強い。十勝を元

気にする企業の役に立ち、

る。ロケット事業が発展すること、十勝の産業にも貢献できる」と話している。（中島佑斗）